

アジア起業家村 インド系企業初進出

川崎市は十一日、アジア企業の誘致や起業家の育成・交流を目指す「アジア起業家村構想」の拠点施設に初めてインド系

のIT（情報技術）関連企業が入居したと発表した。同市が神奈川県、日本貿易振興機構（JETRO）と連携し、誘致活動を進めていた。入居したのはインド人のIT技術者の派遣などを手掛けるマーケットアイ（川崎市）。アジア起業家村の人居企業としては二十二社目。インド人のシー・マディアスハガン、野口友康両氏が代表取締役を務める。資本金は千二百万円で、マディアスハガン氏個人と、野口氏が社長を

兼務する不動産会社が折半出資した。

印系IT企業 川崎に事業所 人材派遣など展開

インド系のIT（情報技術）関連企業「マーケットアイ」が十一日までに、川崎市川崎区のアジア起業家村に事業所を設立した。日本企業向けのIT人材派遣やオフショア（海外業務委託）によるソフトウェア開発など

を行うっていく。当初売り上げ目標は約一千四百万円。

県のインベスト神奈川（産業集積促進策）のワンストップサービスなどを利用し進出した。インベスト神奈川による外資誘致は二十四社目でインド企業は二社目。マーケットアイはイン

ドのIT企業「MKテクノロジー」が日本のパートナー企業と合弁で新設。CAD（コンピューター利用設計システム）や金融マーケットに特化する。（牧野 昌智）

し、IT技術者が不足する国内で、日本語訓練を積んだインド人エンジニアを企業に派遣するなど、ソフト開発を手掛ける。